様式１

観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月２５日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	一般社団法人真庭観光局	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 岡山県真庭市、真庭郡新庄村	
所在地	岡山県真庭市勝山 654 番地	
設立時期	平成 30 年 4 月 1 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	17 人◎本部【常勤 9 人（正職員 6 人・嘱託 1 人・出向者 2 人）・アルバイト 4 人】 ◎指定管理施設【臨時職員 2 人・嘱託職員 2 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 石賀　幹浩 （出身組織名） (株)ヒルゼン高原センター （一社）真庭観光局 ［理事長］	地域経済の発展・雇用の創出を具現化している民間リーダー。首都圏広告会社で 6 年間勤務。海外留学の経験も活かし、国内・海外におけるプロモーションに高い見識を持つ。真庭市観光戦略会議ワーキンググループ座長を務める。蒜山高原における地域活性化への取り組みにも積極的に関わり、地域住民の信頼を集めている。企業経営のプロとしてのノウハウをもとに、（一社）真庭観光局のトップとして観光地経営に携わる。 (株)ヒルゼン高原センター代表取締役。蒜山観光協会会長。ひるぜん焼そば好いとん会会長。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 杉本　昌春「専従」 （出身組織名） （一社）真庭観光局 ［事業部マネージャー］	妙高市観光協会勤務の後、(一社)真庭観光連盟に入社。(一社)真庭観光局発足後、WEB アクセス及び顧客満足度調査、来訪者アンケート等を中心とした各種データの収集、分析の担当者として実務にあたってきた。 ※特定の経歴や資格など要件は設けていない。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 中村　政三「専従」 （出身組織名） （一社）真庭観光局 ［事務局次長・総務部マネージャー］	地元金融機関で 2 年間勤務。（一社）真庭観光連盟設立当初より事務局長として組織運営は基より、経理・国内プロモーション・関係団体との連携事業等に従事。経理についても高い知見と能力を持つ。 ※特定の経歴や資格など要件は設けていない。

様式１

各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 石賀　幹浩 （出身組織名） (株)ヒルゼン高原センター （一社）真庭観光局 ［理事長］	（一社）真庭観光局理事長兼務
	（氏名） 辻　総一郎 （出身組織名） (株)辻本店 （一社）真庭観光局 ［副理事長］	岡山県が誇る酒米「雄町米」にこだわった酒造りを行い、「オール雄町」宣言を掲げ国内外で高い評価を受けている創業 1804 年の御前酒蔵元「辻本店」7 代目。近年は海外市場への積極的な展開も推進中。世界各国を渡り歩く知見を活かし海外プロモーションに高い見識を持つ。 （株）辻本店代表取締役社長。一般社団法人真庭観光局副理事長。勝山観光協会会長。
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 眞柴　幸子「専従」 （出身組織名） （一社）真庭観光局 ［事業部統括マネージャー］	岡山県内で 6 年間にわたりウエディングプランナーの仕事に従事。（一社）真庭観光連盟設立当初、産業観光ツアー「バイオマスツアー真庭」の立ち上げに携わり、現在まで責任者として企画・運営におけるマネジメントを行っている。 国内旅行業取扱管理者。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【岡山県真庭市】 ・産業政策課（真庭市観光戦略/アクションプラン進捗管理・観光統計データ整備・広域連携・社会資本整備・企業支援・ものづくり／販路開拓） ・総合政策課（総合計画・地方創生・地域連携） ・地域みらい創生課（地域づくり・移住定住促進・交流推進） ・秘書広報課（シティプロモーション・広報） ・林業・バイオマス産業課（林業振興・バイオマス政策） ・農業振興課（農畜産業振興）　・環境課（国立公園・自然保護） ・くらし安全課（公共交通）　・まちづくり推進課（都市計画・景観形成） ・教育委員会 生涯学習課（文化財管理・活用）・各振興局（管轄地域の振興） 【岡山県真庭郡新庄村】 ・総務企画課（地方創生・地域づくり・国立公園・公共交通・地域連携） ・産業建設課（観光振興・農林業振興） ・教育委員会（文化財管理・活用）	
連携する事業者名及び役割	【観光関係団体】 蒜山観光協会・（一社）湯原観光協会・勝山観光協会・（一社）北房観光協会 （情報提供・事業連携・地域資源の発掘・滞在交流プログラム企画） 【商工関係団体】 真庭商工会・真庭市産業サポートセンター （起業創業支援・特産品開発・ものづくり／販路開拓） 【農業関係団体】 晴れの国岡山農業協同組合・蒜山酪農農業協同組合 （事業連携・滞在交流プログラム企画・商品開発） 【地域事業者／地域振興会社】 農業法人ひるぜんワイン・(株)辻本店・まちづくり市民応援団まにワッショイ・(一社)むらづくり新庄村など （事業連携・滞在交流プログラム企画・商品開発） 【観光事業者】 湯原町旅館協同組合・地域内宿泊事業者 （情報提供・事業連携・宿泊サービス提供）	

様式１

	土産物店・道の駅・(株)メルヘン・プラザ （情報提供・事業連携・商品開発） 【交通事業者】 中鉄バス（株)・(株）リョービツアーズ・西日本旅客鉄道（株）をはじめバス・タクシー会社 （情報提供・事業連携・交通アクセス改善・ツアー商品企画） 【地元金融機関】 （株）中国銀行・(株）トマト銀行・津山信用金庫 （観光地経営におけるアドバイス・地域事業者への財政面での支援） 【ＤＭＯ法人等】 （一社）せとうち観光推進機構・(一社）鳥取中部観光推進機構 ※（一社）せとうち観光推進機構は、瀬戸内７県をマネジメントエリアとしインバウンドを中心とした活動をする広域ＤＭＯであり、同機構の「せとうちＤＭＯメンバーズ」に真庭観光局も加入し、同機構が展開する各種事業への参画やセミナー、情報共有、同機構をプラットフォームとする各種観光庁補助事業への参画を行っている。 ※（一社）鳥取中部観光推進機構は真庭市蒜山地域をマネジメントエリアとし、日本版ＤＭＯ法人として先駆的に事業を展開し、様々なノウハウを蓄積しており、二次交通など共通する地域課題の解決、海外へのプロモーション活動、観光地域づくりにおける人材の育成など、県境を越えた連携を促進する。 また、観光客動態（人流の動き）に関する勉強会をはじめ情報共有を年に数回実施している。
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する要件】①・② 行政機関、連携事業者などで構成する理事会を定期的に開催する。 また、「観光戦略会議」を設置し、連携する官民・地域・事業者間での情報共有・課題提起などの場として位置づける。なお、特定のテーマごとに観光戦略の具体化に向け活動する「観光地域づくりマネージャー事業」を主として、ワーキンググループ（真庭観光サポーターズ）を設け、責任者として「観光地域づくりマネージャー」を配置し、多様なメンバーの意見やアイデアを調整し、合意形成を図る仕組みを構築する。(通常総会を年１回開催。理事会を年４回開催。戦略会議を年３回開催。観光地域づくりマネージャー会議を年４回開催。)
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	真庭市観光戦略の策定に合わせ、多様な立場の地域住民がメンバーとしてワークショップに参画し、観光戦略の具体化に向け、テーマごとにワーキンググループを設け、観光地域づくりに取り組む上でのコンセプトづくり、情報発信を行うターゲットの検討、滞在交流プログラムの企画に取り組んできた。 （一社）真庭観光局の設立を機に、その事業内容を観光地域づくりに取り組むワーキンググループメンバーはもちろん、地域住民へも広く周知し、参画の促進、観光地域づくりにおける意識啓発・気運醸成を目的としたシンポジウム等も開催し、観光戦略の方向性を共有していく。 「観光地域づくりマネージャー事業」を主にワーキンググループ（真庭観光サポーターズ）では観光地域づくりマネージャー間の意見交換会を含め、令和６年度は５テーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業／2 真庭めぐりコミュニケーション研修事業／3 真庭のお寺活用ネットワーク事業／4MANIWA ブライダルツーリズム事業／5 真庭の森案内人ネットワーク事業）と、3 テーマ本体連携事業（1 情報発信・エリア連携事業／2 交通環境整備事業／3 インバウンド強化事業）を実施しており、主要会議としては延べ４回開催している。
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 事業 ｜ 実施概要

様式１

	情報発信・プロモーション	【2018（平成 30）年度】 ・ポータルサイト制作事業 観光局及び各観光協会 HP を統合し WEB での情報発信を一元化 ・海外プロモーション事業 VISIT JAPAN 韓国商談会、ITF 台北国際旅行展・商談会、マレーシア・インドネシア訪日旅行セミナー・商談会 韓国ツアーデスク設置（韓国チャンネルファクトリー社） ・海外メディア・インフルエンサー等招請ツアー(台湾、韓国等) ・国内プロモーション事業 ツーリズム EXPO ジャパン・商談会 【2019（令和 1）年度】 ・ポータルサイト制作・拡張事業 HP 掲載写真、動画の更新及び特集ページ制作 ・海外プロモーション事業 VISIT JAPAN 韓国商談会、ITF 台北国際旅行展・商談会、マレーシア・インドネシア訪日旅行セミナー・商談会 真庭美食在・台湾イベント開催・台湾 CSBC テレビ・ラジオ出演 ・海外メディア・インフルエンサー等招請ツアー(台湾、韓国等) ・国内プロモーション事業 ツーリズム EXPO ジャパン・商談会 【2020（令和 2）年度】 ・ポータルサイト制作・拡張事業 HP 掲載写真、動画の更新及び英語版サイトの改修 予約フォーム改修 ・海外プロモーション事業 香港、台湾オンライン商談会 ・国内プロモーション事業 教育旅行商品造成オンライン商談会、おかやま再発見観光商談会、岡山高島屋真庭フェア開催 2021（【令和 3】年度】 ・ポータルサイト制作・拡張事業 滞在プログラム発信販売強化、教育旅行用ページ作成、予約システムの導入、レポート機能、旅行会社向けページ作成、予約システム社内クラウド連携 API 開発、教育旅行・SDGs 学習コンテンツ強化改修、滞在プログラム公式 LINE 作成 ・国内プロモーション事業 岡山デスティネーションキャンペーン PR、高速自動車道 PR、旅行会社訪問活動（オンライン含）、晴れの国岡山商談会、中四国管内旅行会社訪問 ・海外プロモーション事業 韓国・台湾旅行会社オンライン会議 【2022（令和 4）年度】 ・ポータルサイト制作・拡張事業

様式１

		滞在プログラム発信販売強化、メインビジュアル強化 ・国内プロモーション事業 岡山デスティネーションキャンペーン PR、高速自動車道 PR、旅行会社訪問活動（オンライン含）、晴れの国岡山商談会、中四国管内旅行会社訪問 ・海外プロモーション事業 韓国・台湾旅行会社オンライン会議、現地取材対応、岡山型ムスリム事業、FAM ツアー実施 **【2023（令和 5）年度】** ・ポータルサイト制作・拡張事業 ホームページ写真素材撮影 ・国内プロモーション事業 真庭フェア開催、おかやま夏旅キャンペーン PR、ツーリズム EXPO2023PR、関西圏への有料広告掲載及び SNS 情報発信、旅行会社訪問活動 ・海外プロモーション事業 韓国・台湾旅行会社情報交換会、台湾・韓国現地でのプロモーション、台湾・韓国 FAM ツアー実施、受入環境整備 （プロモーションブック制作、ガイドア登録） **【2024（令和 6）年度】** ・ポータルサイト制作・拡張事業 「森の芸術祭 晴れの国・岡山」専用ページ制作 ホームページ写真素材撮影 ・国内プロモーション事業 真庭フェア開催、おかやまハレいろキャンペーン PR、森の芸術祭 晴れの国・岡山 PR、SNS 情報発信強化、インフルエンサー動画配信、旅行会社訪問活動 ・海外プロモーション事業 韓国・台湾旅行会社情報交換会、台湾・韓国現地でのプロモーション、台湾・韓国 FAM ツアー実施、受入環境整備 台湾ツアーデスク設置（遊日本合同会社） （プロモーションブック・ツール制作）
	受入環境の整備	**【2018（平成 30）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー利用助成、周遊バス運行 **【2019（令和 1）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー利用助成、周遊バス運行 訪日外国人交通助成 **【2020（令和 2）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー利用助成、周遊バス運行 訪日外国人交通助成 ・ワーケーション推進事業

		国立・国定公園への誘客の推進事業及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業(環境省) ・広域周遊観光促進事業（せとうち DMO 連携事業） 広域周遊観光促進のための地域支援事業(観光庁) **【2021（令和 3）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー利用助成、周遊バス運行 訪日外国人交通助成 ・ワーケーション推進事業 国立・国定公園への誘客の推進事業及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業(環境省) ・グリーナブルヒルゼン観光案内所開設 **【2022（令和 4）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー利用助成、周遊バス運行 訪日外国人交通助成 ・晴れの国おかやま観光キャンペーン事業（観光タクシー、巡回バス、スターウォッチング、キャンドルナイト、真庭巡り） ・利用者とともに実践する国立公園の登山道の安全・修復事業（環境省） ・持続可能な観光地経営モデル形成事業（観光庁） ・地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業（観光庁） 【2023（令和 5）年度】 ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー・JR 利用助成、周遊バス運行、訪日外国人交通助成 ・おかやまアフターディスティネーションキャンペーン事業（観光タクシー、巡回バス、キャンドルナイト、mt スタンプラリー企画） **【2024（令和 6）年度】** ・二次交通対策事業 バス・レンタカー・タクシー・JR 利用助成、訪日外国人交通助成 ・おかやまハレいろキャンペーン事業（アートツアー、観光タクシー、キャンドルナイト企画）
	観光資源の磨き上げ	**【2018（平成 30）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・ワーキンググループ事業 食、SNS 活用策などのテーマでワークショップを開催 **【2019（令和 1）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・ワーキンググループ事業 食、SNS 活用策などのテーマでワークショップを開催

		おむすびプロジェクトによる「チームで 100 個のおにぎりを作った最速タイム」ギネス挑戦、記録認定 **【2020（令和 2）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・観光地域づくりマネージャー事業 観光地域づくりマネージャーを主体に、イベント、マイクロツーリズム、お寺の活用、おむすびプロジェクトなどのテーマでワークショップを開催、事業化への具体的な検討 **【2021（令和 3）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・観光地域づくりマネージャー事業 観光地域づくりマネージャーを主体に、7 つのテーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業、2 まにわ発酵ツーリズム事業、3 真庭めぐりコミュニケーション研修事業、4 真庭のお寺活用ネットワーク事業、5 情報発信・エリア連携事業、6 交通環境整備事業、7 おむすびプロジェクト事業）を実施。真庭観光サポーターズ（ワーキンググループ）での事業化への具体的な検討 **【2022（令和 4）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・観光地域づくりマネージャー事業 観光地域づくりマネージャーを主体に、8 つのテーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業、2 まにわ発酵ツーリズム事業、3 真庭めぐりコミュニケーション研修事業、4 真庭のお寺活用ネットワーク事業、5 情報発信・エリア連携事業、6 交通環境整備事業、7 おむすびプロジェクト事業、8 ブライダルツーリズム事業）を実施。真庭観光サポーターズ（ワーキンググループ）での事業化への具体的な検討 ・ＯＮＳＥＮガストロノミー事業 ・地域連携事業者による新規**顧客**創造のためのアウトドア発酵ツーリズムイベント事業（観光庁） ・真庭市勝山町並み保存地区活性化とサイクルツーリズム促進事業（観光庁） ・地域産業の未来を創る発酵食品ツーリズム web3.0 看板商品事業（観光庁） **【2023（令和 5）年度】** ・マーケティング調査事業 来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握 ・観光地域づくりマネージャー事業 観光地域づくりマネージャーを主体に、9 つのテーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業、2 真庭めぐりコミュニケーション研修事業、3 真庭のお寺活用ネットワーク事	

業、4 情報発信・エリア連携事業、5 交通環境整備事業、6 おむすびプロジェクト事業、7 ブライダル事業、8 インバウンド強化事業、9 木材のまち真庭案内人事業）を実施。真庭観光サポーターズ（ワーキンググループ）での事業化への具体的な検討
・ＯＮＳＥＮガストロノミー事業
・蒜山自然再生協議会との連携した保全活動
・蒜山エリアにおける国立公園満喫プロジェクト
・インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業（観光庁）

【2024（令和 6）年度】
・マーケティング調査事業
来訪者満足度調査による地域の観光資源等に対する評価の把握
・観光地域づくりマネージャー事業
観光地域づくりマネージャーを主体に、5 テーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業／2 真庭めぐりコミュニケーション研修事業／3 真庭のお寺活用ネットワーク事業／4MANIWA ブライダルツーリズム事業／5 真庭の森案内人ネットワーク事業）と、3 テーマ本体連携事業（1 情報発信・エリア連携事業／2 交通環境整備事業／3 インバウンド強化事業）を実施。真庭観光サポーターズ（ワーキンググループ）での事業化への具体的な検討
・蒜山自然再生協議会との連携した保全活動
・蒜山エリアにおける国立公園満喫プロジェクト
・阪急阪神百貨店との伴走事業
・和歌山大学との連携事業
・地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業（観光庁）
・地域観光新発見事業（観光庁）

【定量的な評価】
〇ポータルサイトアクセス数（単位：件）

年度	日本語サイト	英語サイト	中国語サイト
2018（平成 30）年度	1,392,030	―	―
2019（令和 1）年度	511,669	1,091	294
2020（令和 2）年度	768,027	1,172	157
2021（令和 3）年度	942,421	1,566	162
2022（令和 4）年度	1,091,647	2,224	338
2023（令和 5）年度	1,112,149	2,106	1,366
2024（令和 6）年度	1,168,364	4,121	1,571

※令和 1 年度から新ポータルサイトへ移行

様式１

○「真庭 SDGｓバイオマスツアー」参加者実績（単位：人）
※延参加者数実績：28,190 人　2006（平成 18）年度～2024（令和 6）年度

年度	参加人数(人)	年度	参加人数(人)	年度	参加人数(人)	年度	参加人数(人)
2006 (H18)年度	423	2011 (H23)年度	1,611	2016 (H28)年度	1,550	2021 (R3)年度	354
2007 (H19)年度	2,098	2012 (H24)年度	2,587	2017 (H29)年度	1,604	2022 (R4)年度	1,005
2008 (H20)年度	1,906	2013 (H25)年度	2,242	2018 (H30)年度	1,281	2023 (R5)年度	1,390
2009 (H21)年度	1,142	2014 (H26)年度	2,912	2019 (R1)年度	715	2024 (R6)年度	948
2010 (H22)年度	1,298	2015 (H27)年度	2,929	2020 (R2)年度	195	合計	28,190

※平成 29 年以前は(一社)真庭観光連盟の実施

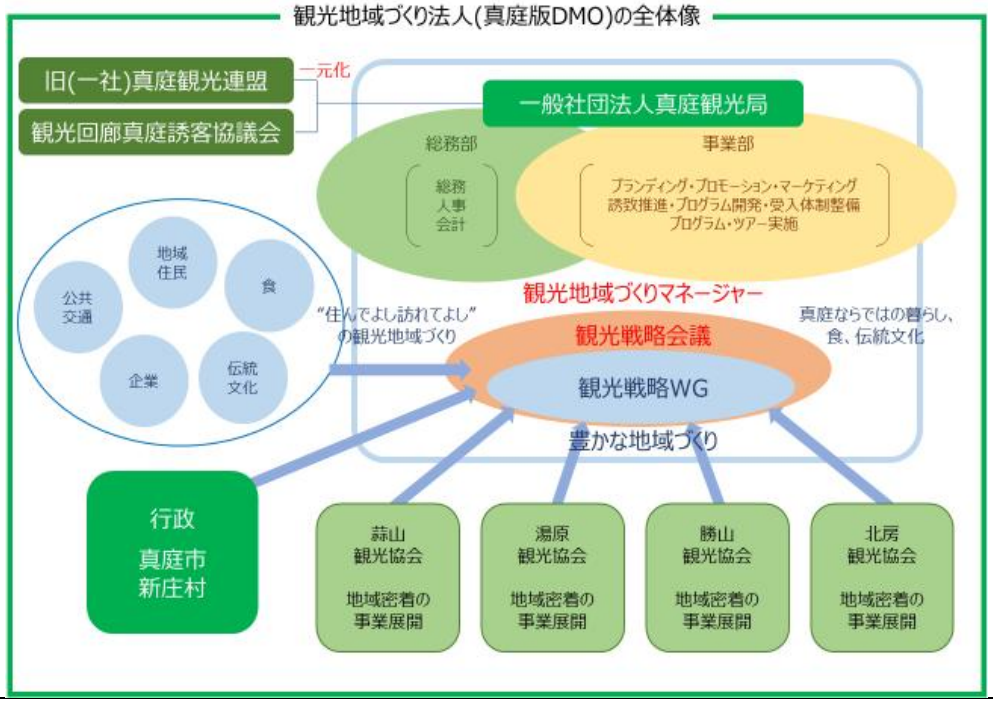
○教育旅行誘致実績（単位：校／人）※平成 24 年度より実施
※延誘致実績：131 校 12,902 人　2012（平成 24）年度～2024（令和 6）年度

年度	学校数(校)	参加人数(人)	年度	学校数(校)	参加人数(人)	年度	学校数(校)	参加人数(人)
2012 (H24)年度	5	555	2017 (H29)年度	8	587	2022 (R4)年度	20	1,767
2013 (H25)年度	5	756	2018 (H30)年度	11	1,061	2023 (R5)年度	12	1,479
2014 (H26)年度	9	758	2019 (R1)年度	5	215	2024 (R6)年度	7	723
2015 (H27)年度	10	1,226	2020 (R2)年度	10	603	合計	131	12,902
2016 (H28)年度	10	985	2021 (R3)年度	19	2,187			

※平成 29 年以前は(一社)真庭観光連盟の実施

【実施体制の概要】
平成 29 年度までの（一社）真庭観光連盟と観光回廊真庭誘客協議会での取組を基礎に、新たな組織体制を確立し、メンバーには、行政、観光事業者、宿泊業者、飲食業者のみならず、農林業、交通関連事業者など多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。

様式１

実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制図】** **〇理事会** 理事長：1 人、副理事長：2 人、理事 10 人、監事 2 人にて構成。 **〇事務局** 事務局長：1 人 総務部門職員：3 人 事業部門職員：5 人 **〇観光地域づくりマネージャー**：16 人 **〇観光戦略会議** 真庭観光局理事長、副理事長、事務局、観光地域づくりマネージャー、各観光協会、行政、商工会、地域団体、有識者等で構成している。 令和 5 年度より真庭市議会議員、新庄村議会議員の傍聴を取入れている。 

	真庭地域全体を包括する観光推進組織として設立された（一社）真庭観光連盟ならびに観光関係団体、行政、ＪＲなどが構成する「観光回廊真庭誘客協議会」を解散し、（一社）真庭観光局を設立する。 設立時は、「総務部門」「プロモーション／マーケティング部門」「地域マネジメント部門」の 3 部門により各種事業を展開する事務局体制を構築。現在は、「総務日」「事業部」の 2 部門で事務局体制を構築。「観光地域づくりマネージャー」が中心となり、ワーキンググループ（部会）による活動、事業の具現化を進めていくとともに、「観光戦略会議」を観光地域づくりの推進における「核」として位置づけ、多様な地域関係者の参画と合意形成の場とする。また、既存観光関係団体については、地域に密着した事業を引き続き取組み、（一社）真庭観光局と連携・役割分担を図る。

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

様式１

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

［真庭市］

平成 17 年 3 月 31 日、9 つの町村（５町４村）が合併して誕生。

岡山県北部・中国山地のほぼ中央に位置する。北は鳥取県に接し、東西に約 30km。南北に約 50km。高速道路のインターチェンジは５箇所。

・総面積　約 828k ㎡ **（※面積の約８割が森林）**

・人口　40,296 人　世帯数　17,354 世帯（R7.6.1 現在）

木質バイオマスを活用した新産業の創出をはじめ、環境に優しい循環型社会の形成を目指す「バイオマス産業杜市真庭」の実現に向け取り組んでいる。森林資源をはじめ、蒜山高原、湯原温泉などの観光地にも恵まれ、古くから山陰・山陽の中継地として、出雲街道、大山みちの宿場として栄えた久世、城下町の風情が残る勝山の町並みなど、歴史文化、伝統工芸なども多く残っている。

［新庄村］ ※単独で自治体を構成。

・総面積　67.10k ㎡

・人口　786 人　世帯数　371 世帯（R7.2.28 現在）

古くは出雲街道の宿場町「新庄宿」として栄え、旧出雲街道は今も当時の面影を残す風情のある町並みを形成している。毛無山を主峰とする 1000m級の美しい山々に囲まれ、岡山県下三大河川の１つ、旭川の源流域に位置している。

【観光資源の活用方法】

ナショナルパークでトレッキング

真庭で散走サイクリング

スノーシューツアー

地域の食文化を囲炉裏で体験

【区域設定の考え方】

平成 19 年度から、真庭地域の観光関係団体（観光協会・旅館協同組合）、真庭市、新庄村、ＪＲなど

で構成する「観光回廊真庭誘客協議会」を設置しており、季節に応じたタクシープラン、周遊バスツアー、サイクリングプログラムの企画など連携した取組を実施している。参加者アンケートも実施し、事務局を担っていた（一社）真庭観光連盟が来訪者ニーズも把握している。広域なエリア内に多彩な観光資源を有する当地域においては、今後、（一社）真庭観光局が地域内のマネジメントを中心的に担うことを想定しており、上記のとおりの区域設定とするのが適切と考える。なお、今後、山陰・山陽をはじめ周辺地域との連携をより一層強化することが必要と考えており、関係自治体との連携・調整役としても、（一社）真庭観光局が積極的に関与していく。

【連携するＤＭＯ法人とのマネジメントエリアの位置関係】

（一社）鳥取中部観光推進機構と当地域のマネジメントエリア
※蒜山地域が重なり合う関係にある

【観光客の実態等】

（1）観光入込客数

【真庭市】

観光入込客数全般の状況について、令和 6 年は前年度（令和 5 年）実績をクリアーし新型コロナウイルス感染前の入込客数に戻ってきている。真庭市全体では、令和 5 年の入込客数に対して令和 6 年は 52 千人増の 3,048 千人（前年比 102%）となっている。また、インバウンド観光客（宿泊客）についても全体数としては低いが急速に加速し、令和 5 年の入込客数に対して令和 6 年は 1,537 人増（前年比 323%）と大幅に増えてきている。

蒜山地域では、大山隠岐国立公園の一部に属し、ジャージー種牛を中心とした酪農による牧歌的景観、集落単位で行われる山焼き作業により維持される草原景観をはじめ、自然環境に恵まれており、観光に携わる事業者や従業者も多い。令和 3 年 7 月にオープンした観光交流・文化発信施設「GREENable HIRUZEN（グリーナブルヒルゼン）」を拠点とした情報発信をする中、新たな客層が蒜山地域へ来訪している。また、令和 4 年には外国人観光客を見込んだ新たなホテルやグランピング施設が完成し周知しはじめている。県内屈指の観光地として市内でも入込客数が一番多い蒜山高原の令和 6 年の入込客数は 2,182 千人（前年比 102%）となっている。次いで多くの集客があるのが湯原温泉郷をはじめとした温泉地を有する湯原地域である。令和 6 年の入込客数は 263 千人（前年比 103%）となっている。宿泊客数についてはピーク時には約 250 千人前後であったが、令和 6 年は 98 千人（前年比 105%）となっている。旅館の閉館やコロナを受けて社会状況や旅行形態の変化に加え、部屋数あたりの収容人数の減少や宴会場の閉鎖など厳しい状況が続いているが、旅館経営者の息子など若い人材が域外から帰って来ており旅館経営の参画をしはじめた所で、今後に向けて頼もしい動きがみられる。勝山地域では、出雲街道の要衝として栄えた町並み保存地区にカフェやギャラリーが点在し、のれんの町としても知られている。地域住民による交流やまちづくりの活動も活発に行われており、令和 6 年の入込客数は 169 千人（前年比 110%）である。また、醍醐桜で知られる落合地域に 253 千人、ホタルの時期に多くの人が訪れる北房地域では、昭和の町並みを活かした取組も進められており 77 千人の入込客数となっている。令和 6 年は市内総じて令和 5 と比較して上回りコロナ前の入込客数に戻っている状況である。

令和 6 年の特徴的な動きとして、岡山県北エリアで 9 月～11 月に「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が開催され、多くの観光客が来訪された影響が大きく、合わせて新規イベント（マルシェ）なども市内各地域で多く開催をされていることも要因でもある。

【新庄村】

観光入込客数全般の状況について、令和 6 年は前年度（令和 5 年）実績をクリアーし新型コロナウイルス感染前の入込客数に戻ってきている。新庄村全体では、令和 5 年の入込客数に対して令和 6 年は 4

千人減の 131 千人（前年比 96.7%）となっている。入込客数減の一番大きな要因としては、令和 6 年に限っては 4 月の桜まつりイベントの告知を広く情報発信しなかったことが要因である。新庄村は人口千人を下回る中山間地域で、出雲街道の宿場町として栄えた歴史の面影を残す全長 800mの通りに日露戦争の戦勝記念に植えられたとされる 132 本の桜がアーケードを作る「がいせん桜」の景観が特に有名である。4 月に行われる「がいせん桜祭り」には、県下で最も遅いお花見スポットとして、1 万人を超える観光客が訪れる。町並みには古民家を改修した宿泊施設や観光案内（フリースペース）などの施設もできている。また、大山隠岐国立公園に属する田浪エリアは、毛無山のトレッキング、森林セラピー「ゆりかごの小経」など自然を活かしたレジャーが楽しめるほか、平成 28 年から新庄村と真庭市蒜山地区をフィールドにしたトレイルラン大会「SHINJO-HIRUZEN SUPER TRAIL」を開催しており、アウトドアのフィールドとしての入込増にも取組んでいる。令和 6 年は村内総じて令和 5 年と比較して下回っているが、コロナ前の入込客数に戻っている状況である。

【令和 6 年度真庭地域来訪者満足度調査より】

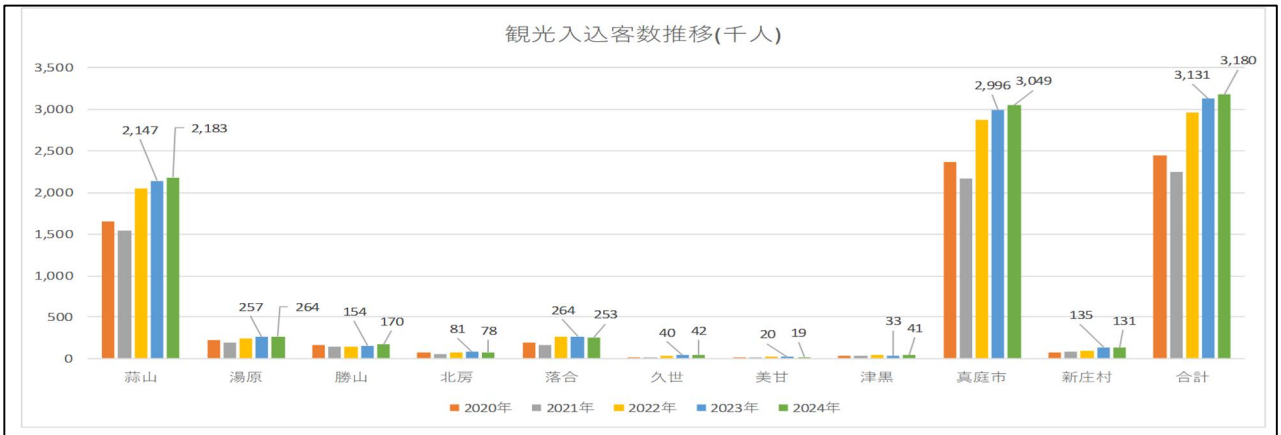
《特徴①》アンケート回答者「中国・四国」6 割を占め、次いで「関西」が 3 割と続く。

《特徴②》滞在時間は「日帰り」が 45%と日帰りの割合が低下。

《特徴③》旅行同行者は「夫婦・カップル」の割合が 43%と最も高く、次いで「中学生以下の子供を含む家族」が 17%と高い。

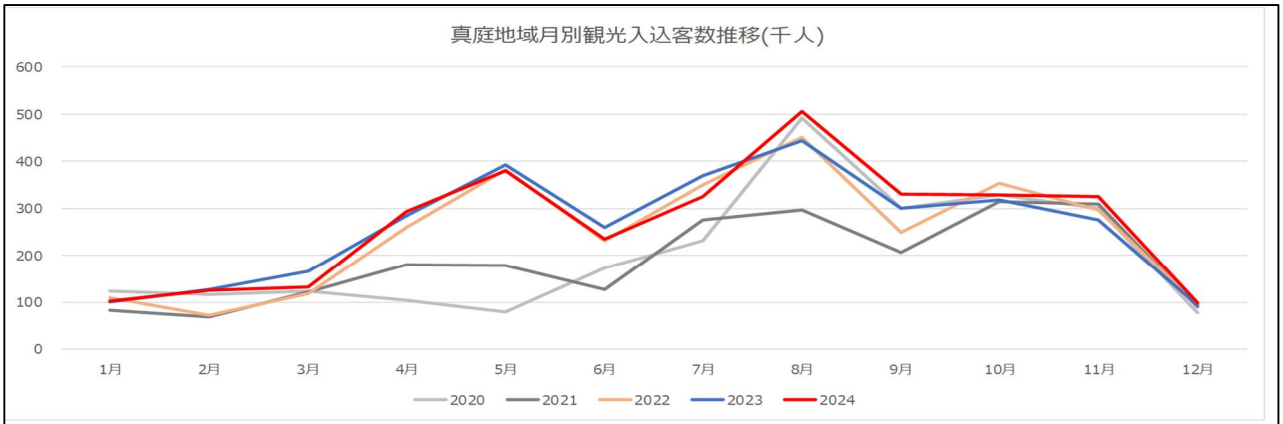
【観光客の実態等】

【真庭地域（真庭市・新庄村）観光入込客数集計表・年間（2020 年～2024 年）】



年	蒜山	湯原	勝山	北房	落合	久世	美甘	津黒	真庭市	新庄村	合計
2020年	1,658,277	225,838	161,572	69,727	192,230	11,145	18,615	34,522	2,371,926	74,981	2,446,907
2021年	1,550,453	193,036	142,350	50,186	164,270	13,043	18,296	36,863	2,168,497	83,220	2,251,717
2022年	2,054,097	245,728	141,823	75,311	262,944	30,677	20,173	42,116	2,872,869	90,969	2,963,838
2023年	2,146,923	256,980	153,628	80,926	263,904	40,134	20,472	32,634	2,995,601	135,404	3,131,005
2024年	2,182,814	263,987	169,858	77,680	253,147	41,596	18,639	40,785	3,048,506	131,026	3,179,532

【真庭地域（真庭市・新庄村）観光入込客数集計表・月別（2023 年～2024 年）】



(単位：人)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
2023年	99,898	126,162	166,508	285,069	393,100	259,747	370,044	444,201	300,018	317,588	276,056	92,614	3,131,005
2024年	101,558	125,057	131,644	292,767	380,736	234,334	324,941	506,315	331,233	328,059	324,376	98,512	3,179,532
前年比(%)	102%	99%	79%	103%	97%	90%	88%	114%	110%	103%	118%	106%	102%

様式１

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

カテゴリー／エリア	蒜山地域	湯原地域	勝山・久世地域	北房・落合・美甘・新庄地域
自然・景観	・蒜山高原 ・蒜山三座 ・カワシンジュガイ ・フサヒゲルリカミキリ ・珪藻土露天掘 ・山焼きと草原（ススキ） ・湿原 ・津黒高原 ・山乗渓谷 ・津黒山（ブナ巨木） ・黒ボコ	・鼓岳・つづみ橋 ・竜頭の滝 ・ホタル道 ・よりそい橋 ・古屋不動滝 ・櫃ヶ山 ・湯原ダム・湯原湖 ・露天風呂「砂湯」 ・佐波良の大杉 ・社の式内八社 ・カジカガエル	・勝山町並み保存地区（のれんの町並み） ・神庭の滝 ・神代四季桜 ・岩井畝の大桜 ・富原の森 ・旧遷喬尋常小学校 ・久世トンネル桜 ・高瀬舟発着場跡 ・ミツマタ ・美作檜（ひのき）	・美甘渓谷 ・美甘宿場桜 ・醍醐桜 ・コスモス ・ホタル、ヒメボタル ・備中鐘乳穴・諏訪の穴 ・古墳 ・トラフダケ ・がいせん桜 ・カタクリ ・毛無山 ・土用ロックフィルダム
食べ物	・ひるぜん焼そば ・蒜山そば ・ジンギスカン ・蒜山おこわ ・根わさび・こけら寿司 ・きのこ ・ひるぜんこだわり大根 ・大根料理・手作り豆腐 ・ジャージー乳製品 ・美保鶴（地酒） ・ひるぜんワイン ・山葡萄ジュース	・青大豆「キヨミドリ」 ・湯原そば ・すっぽん料理 ・黒姫鯛	・御前酒（地酒） ・銀沫（やまのいも） ・ピオーネ ・とみはら茶 ・深山のかおり ・かつやま紅茶 ・西条柿 ・紅酢 ・久世代官梨 ・勝山椎茸	・古代米加工品 ・あまご ・山菜 ・落合羊羹 ・巻柿 ・備中白小豆 ・ジャンボ明日香梨 ・大正の鶴（地酒） ・ピオーネ ・ひめのもち ・さるなし
歴史・文化行催事	・蒜山・高天原伝説 ・大宮踊 ・蒜山銭太鼓 ・大山みち宿場 ・山中一揆 ・警護行列（春・秋祭り）	・はんざき祭り ・山中一揆 ・警護行列	・勝山祭り・喧嘩だんじり ・勝山のお雛まつり ・サバ知らず（伝説） ・久世祭り・だんじり喧嘩 ・高瀬舟 ・出雲街道	・吉念仏踊り ・郡　火祭り ・中津井雛の文化祭り ・北房ぶり市 ・高瀬舟 ・出雲街道 ・後鳥羽上皇旧跡 ・脇本陣　木代邸
生活文化	・牛馬と暮らし ・郷原漆器（備中漆） ・がま細工 ・山焼き ・大山みち宿場町 ・山中たばこ	・神湯焼 ・湯原独楽	・勝山竹細工　・のれん ・バイオマス産業杜市 ・樫西和紙 ・ペレットストーブ・ボイラー ・牛市	・宇南寺焼 ・出雲街道宿場町 ・木製スーパーカー ・モコ製品
施設・拠点	・GREENable HIRUZEN ・蒜山ひととき ・ひるぜんジャージーランド ・休暇村蒜山高原 ・道の駅風の家 ・道の駅蒜山高原 ・ヒルゼン高原センター・ジョイフルパーク ・蒜山ハーブガーデン ・ひるぜんワイナリー ・石の大鳥居 ・ふるさとふれあい特産館 ・四ツ塚古墳群 ・福田神社 ・長田神社	・湯原温泉郷 ・露天風呂「砂湯」 ・下湯原温泉 ・足温泉　・真賀温泉 ・郷録温泉 ・湯原ダム ・手湯・足湯 ・湯フィース ・独楽の博物館 ・はんざきセンター ・はんざきミュージアム ・社の式内八社 ・湯原ゆったり広場 ・湯原クライミングセンター ・湯原ふれあいセンター	・三浦邸 ・勝山郷土資料館 ・武家屋敷館 ・勝山美しい森 ・勝山文化往来館ひしお ・勝山木材ふれあい会館 ・久世教諭所 ・毎来寺 ・華蔵庵の松 ・目木構 ・高仙の里よのキャンプ場 ・バイオマス産業杜市関連施設	・クリエイト菅谷 ・美甘カフェ ・みどりふれあい会館 ・道の駅醍醐の里 ・なかつい陣屋 ・旧菅野邸 ・大谷・定古墳群 ・木山寺　・木山神社 ・普門寺 ・玉泉寺 ・毛無山　山の家 ・森林セラピー基地 ・道の駅がいせん桜新庄宿 ・コワーキングスペース咲蔵家
体験・交流	・ワラビ収穫体験ツアー ・酪農体験 ・登山／キャンプ／サイクリング ・海の市・山の市真庭 ・スノーシュー体験 ・リバートレッキング	・人間ドック（温泉と療養） ・湯原ダムバックヤードツアー ・トライアスロン ・湯原っしい ・キャンドルファンタジー	・勝山ふるさともみじ祭り ・なつかしの学校給食 ・軽トラ朝市 ・勝山体験・クラフト市 ・真庭で散走サイクリング	・落合納涼花火大会 ・落合まちかど展覧会

まちづくり	・ひるぜん焼そば好いとん会 ・真庭なりわい塾 ・山焼き隊 ・大宮踊保存会 ・蒜山ガイドクラブ ・蒜山ツアーデスク	・廃食油リサイクル事業	・NPO 法人勝山・町並み委員会 ・勝山町並み委員会	・おちアーズ ・(一社)むらづくり新庄村 ・出雲街道新庄宿まちつくりの会 ・森林セラピー協議会 ・SJC
	・21 世紀の真庭塾 ・真庭あぐりネットワーク推進協議会 ・各エリアガイド組織 ・地域おこし協力隊		・まにワッショイ ・まにわ発酵’S ・NPO 醍醐桜未来プロジェクト ・おちアーズ	・木山寺郷土保存会 ・上田むらおこしの会 ・SJC

上の表に挙げられるように、多様な資源や地域性の活用や連携により新たな取組への発展を目指し、地域のリーダーとなる、観光地域づくりマネージャー主導により、令和 6 年度は地域資源を活用した 5 つのテーマ事業（1 真庭イベントプロジェクト事業／2 真庭めぐりコミュニケーション研修事業／3 真庭のお寺活用ネットワーク事業／4MANIWA ブライダルツーリズム事業／5 真庭の森案内人ネットワーク事業）と、3 テーマ本体連携事業（1 情報発信・エリア連携事業／2 交通環境整備事業／3 インバウンド強化事業）をプロジェクトとして進行している。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

区域	施設数	収容力(人)	部屋数	その他（施設タイプ）				
				ホテル	旅館	民宿 ペンション	コテージ 貸別荘	その他
蒜山エリア	38	841	220	4	2	1	5	2
湯原エリア	20	1,150	316	3	17	0	0	0
勝山・久世・美甘エリア	16	231	66	2	9	2	0	3
落合・北房エリア	10	175	69	1	4	1	0	4
新庄エリア	6	59	16	0	1	3	1	1
計	90	2,456	687	10	33	7	6	10

コロナ前の状況と比較する中、施設数は 2 増、収容力が前回調査より 754 人減、部屋数は 200 減と大きな減少がみられる。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

〇特徴

真庭地域への来訪については、概ね 8 割以上が自動車を交通手段としている傾向がある。

地域内には米子自動車道、中国自動車道がクロスし、5 つのインターチェンジがあり、高速道路網が整備されている。また、岡山駅をはじめ、大阪、米子、倉吉など近隣都市部にアクセスする高速バスも民間バス会社が運行している。

ＪＲについては、津山線・伯備線から姫新線に乗り換えることにより、地域内へアクセスが可能となっているが、便数が限定され、域内交通との接続も不便である。

空路については、最寄りの空港として岡山空港、米子鬼太郎空港、鳥取砂丘コナン空港があるが、域内までのアクセスが限定され、改善に向けた対策が必要である。

〇自動車（真庭市中心市街地まで）

・大阪から久世ＩＣ…　約 150 分／約 170ｋｍ
［中国自動車道中国池田ＩＣ→米子自動車道→久世ＩＣ］

・広島から久世ＩＣ　…　約 180 分／約 200ｋｍ

［山陽自動車道広島ＩＣ→岡山自動車道→中国自動車道→米子自動車道→久世ＩＣ］
・岡山/倉敷から久世ＩＣ … 約 60 分／約 70ｋｍ
［山陽自動車道岡山ＩＣ・倉敷ＩＣ→岡山自動車道→中国自動車道→米子自動車道→久世ＩＣ］
・米子から久世ＩＣ … 約 50 分／約 60ｋｍ
［米子自動車道米子ＩＣ→久世ＩＣ］
・倉吉から久世まで … 約 60 分／約 60ｋｍ
［倉吉駅→国道 179 号→国道 482 号→国道 313 号→国道 181 号→久世］
【利便性：区域までの交通、域内交通】
〇電車 岡山駅～中国勝山駅
ルート１…約 140 分 ＪＲ津山線（岡山―津山） 90 分－乗換－ＪＲ姫新線（津山―中国勝山駅）45 分
ルート２…約 160 分 ＪＲ伯備線（岡山―新見）100 分－乗換－ＪＲ姫新線（新見―中国勝山駅）55 分
〇バス（主要都市部と当地域を結ぶ路線）
・勝山⇔岡山（中国勝山駅発着・真庭市役所他経由）中鉄北部バス運行／1 日各 4 便
・倉吉⇔岡山（蒜山・湯原温泉経由）日ノ丸自動車運行・関金経由／平日 1 日往路・復路各 1 便
・高梁⇔北房（呰部・中津井他経由）備北バス運行／1 日往路 6 便、復路 5 便
・倉吉⇔神戸・大阪（蒜山・湯原・久世経由）日本交通運行／平日 1 日往路・復路各 1 便み）
土日祝限定 1 便、往路のみ金土日祝限定 1 便（2025 年 7 月 26 日～改正）
・米子⇔大阪（湯原二川ＢＳ経由）日本交通運行／1 日往路 1 便、土日祝限定 3 便・復路各 2 便
・岡山⇔東京（落合経由）下津井電鉄・小田急シティバス運行 ※運休中
・鳥取⇔広島（湯原温泉・北房呰部経由）日ノ丸自動車運行／１日往路・復路各 1 便
リムジンバス（乗合タクシー）
・真庭⇔岡山（真庭市役所・岡山空港発着）勝田交通／1 日往路 4 便・復路 2 便
・島根⇔東京（久世 IC 経由）WILLER／1 日往路・復路各 1 便 予約制
〇飛行機 ※最寄空港のみ
岡山空港発着
［国内］
・羽田空港⇔岡山空港 …約 75 分 JAL/ANA 運航 1 日往路・復路各 10 便
・札幌（新千歳）⇔岡山空港 …約 115 分 ADO/ANA 共同運航 1 日往路・復路 1 便
・沖縄（那覇） ⇔岡山空港 …約 125 分 JTA 運航 1 日往路・復路各 1 便
［海外］
・台北（桃園）⇔岡山空港 …約 105 分 タイガーエア台湾 1 日往路・復路各 1 便、木日曜 2 便
・ソウル（仁川）⇔岡山空港 …約 90 分 大韓航空運航 火水金日曜往路・復路各 1 便
・上海（浦東）⇔岡山空港 …約 200 分 中国東方航空運航 火木金土日曜往路・復路各 1 便
・香港⇔岡山空港 …約 270 分 香港航空運航 ※運休中
米子鬼太郎空港発着
［国内］
・羽田空港⇔米子鬼太郎空港 …約 80 分 ANA 運航 1 日往路・復路各 6 便
［海外］
・ソウル⇔米子鬼太郎空港 …約 90 分 エアソウル運航 月水木金日曜往路・復路各 1 便
・香港⇔米子鬼太郎空港 …約 270 分 香港航空運航 火木日曜往路・復路各 1 便
・上海⇔米子鬼太郎空港 ※運休中
●域内交通
〇特徴
地域内での移動については、ＪＲ姫新線は学生の通学利用が多い。
広域エリアであるため、民間が運行するバス路線は全域を網羅しておらず、真庭市コミュニティバス「まにわくん♡」の運行によりカバーしているが、交通手段の確保・利便性の改善が大きな課題となっている。
〇電車 ＪＲ姫新線 地域内に 7 つの駅がある
〇タクシー 地域内で 5 事業者が営業
〇真庭市コミュニティバス ［まにわくん♡］

・乗車料金　1回あたり200円（中学生以上）小学生100円
・幹線ルートをはじめ、地域内17路線運行

【外国人観光客への対応】

真庭地域への外国人観光客数は全体数としては低いが、急速に加速をしているインバウンド需要に関して、岡山空港への直行便が就航している東アジア圏（台湾・韓国）を短期ターゲットとして認知度向上や誘客促進を行っている。台湾・韓国の両国には現地の旅行会社と連携して、ツアーデスクを設置している。台湾・韓国からの問い合わせが入った場合はツアーデスクを挟んで対応している関係から言語を含めより細かな対応が可能となっている。現地ＦＡＭツアーをはじめプロモーション活動への同行やアポ取り、通訳を含め積極的なプロモーションを展開している。また、中長期ターゲットとして日本の文化やコト体験に関心が深く、周遊による滞在時間や観光消費額の向上が見込まれる欧米豪市場に対しての認知度向上や誘客促進を図っている。

木質資源を活用した循環型まちづくりに関する取り組みの視察を目的に、アジア圏を中心にこれまで約800名が「真庭SDGｓバイオマスツアー」へ参加している。また、平成28年度からは岡山市・吉備中央町・真庭市が連携し、東南アジア方面からのムスリム観光客の受入体制整備（ハラル対応店舗等の育成）、商談会の開催、ファムツアー等を共同実施している。平成29年度より「国立公園満喫プロジェクト」の事業の一環として、海外旅行者の受入対応が可能なアクティビティガイドの人材育成、滞在交流プログラムの企画、ファムトリップにおける現地でのガイド受入等も実施しているところである。環境省や岡山県が実施主体となり、登山道の整備と案内標識の多言語化、トイレの洋式化、野営場の再整備なども計画されている。

宿泊施設等の受入については、令和4年11月にオープンした蒜山エリアの「フェアフィールド・バイ・マリオット岡山蒜山高原」をはじめ、休暇村蒜山高原、貸別荘等でも海外旅行者の受入が進んでいるほか、湯原温泉の旅館・ホテルにおいてもアジア圏を中心に宿泊客受入状況の調査をはじめ整備しているところである。

ＰＲツールについては、総合パンフレットは4か国語のものを作成している。多言語（8カ国）観光情報ガイド「Guidoor」のほか、サイクリングマップ、登山ガイドマップについても英語版を作成している。また、ＷＥＢやＳＮＳによる情報発信、動画制作についても整備し発信をしているところであるが、効果的な発信を含め今後の大きな課題となっている。また、プロモーションについても、地域単独での取組は財政的にも困難であり、一般社団法人せとうち観光推進機構を中心に岡山県、岡山県観光連盟や鳥取県観光連盟、近隣エリアと連携した活動も含め、積極的に行っていくこととしている。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	データに基づく戦略・ＫＰＩの策定と進捗管理のため。 分野別の消費単価を把握することで、地域の弱み（課題）を把握しその改善策を見出す。滞在時間の延長と地域内での旅行消費額の増加により、豊かな地域づくりにつなげていく。	観光庁の示すアンケートフォーマットをベースに個別項目を追加し、作成した調査表により顧客満足度調査を自主事業として実施している。
延べ宿泊者数	旅行消費額の増加や満足度の向上には、宿泊者数を伸ばすことが必要であり、その動向を調査、把握する。 外国人旅行者も合わせてデータを収集。	地域内宿泊施設における調査を行政と連携し実施している。
来訪者満足度	地域が提供する各種サービスの品質の維持・向上のため。	観光庁の示すアンケートフォーマットをベースに個別項目を追加し、作

	調査対象施設には結果のフィードバックを行い、満足度向上に向け、改善等を図っていく。	成した調査表による顧客満足度調査を自主事業として実施している。
リピーター率	データに基づく戦略・ＫＰＩの策定と進捗管理のため。 満足度の向上と合わせ、リピーター率を維持し、ファンとなる顧客の獲得・維持につなげる。	観光庁の示すアンケートフォーマットをベースに個別項目を追加し、作成した調査表により顧客満足度調査を自主事業として実施している。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	当地域に対する顧客の関心度を把握するとともに今後の効果的な情報発信の基礎データを収集するため。	Google 等の活用により、自主事業として実施している。
滞在交流プログラムの造成数・満足度	自主財源確保（収益増）と、地域住民との連携による来訪者の満足度向上、滞在時間延長の促進を図る。	自主事業として実施している。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

エリアとする真庭市、新庄村ではいずれも人口減少が進んでおり、基幹となる第一次産業はもとより、各種産業での人材不足が顕著となっている。また、少子高齢化により集落維持も困難になりつつある地域もあるなど、過疎化に歯止めがかかっていない状況にある。こうした課題に対し、(一社)真庭観光局をプラットフォームとして、エリア内の観光資源を改めて見直し、地域ならではの自然との共生やSDGｓにもつながる取組を活用するとともに、地域の担い手、リーダーの育成を行い、地域の人々が主体となって観光地域づくりを進めることで、交流人口の増加や地域経済の循環、担い手不足の解消につなげていくこととしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） 〇知名度の高い高原地帯（蒜山高原） 〇温泉（湯原温泉） 〇四季折々の景観（桜、ホタル、紅葉、雪など） 〇バイオマスツアー真庭・SDGｓ 〇古代～中世～近世～近代の歴史を残す町並み・史跡・文化財 〇伝統的行催事 〇多彩なまちづくりグループ 〇自然条件や生活文化が多彩	弱み（Weaknesses） 〇絞り込みが不十分（情報発信のターゲットの不統一） 〇二次交通が不便 〇マーケティング・ターゲティング不足 〇地産地消が不十分 〇滞在プログラム・体験メニューの継続的開発が不十分 〇観光における市民の巻き込みが不十分 〇旅行者にとってのワンストップ体制ができていない 〇相互連携が不十分
外部環境	機会（Opportunity） 〇訪日外国人旅行者の増加(アフターコロナ) 〇旅行形態の変化（個人旅行）と目的・志向の多様化	脅威（Threat） 〇国内旅行の低迷（旅行機会の減少等） 〇人口減少、少子高齢化社会の進行

	○観光立国・観光地域づくりの推進 ○日本版ＤＭＯの構築推進 ○ＳＮＳによる情報・通信手段の多様化、利便性の向上	○他地域との競争激化（国内観光、訪日旅行） ○国際的秩序への不安

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層
台湾・韓国を中心とした東アジア圏のアクティブ層、30～50 代のリピーター

○選定の理由
【外国人宿泊者数調査票より】

外国人宿泊者数(人)	韓国	台湾	中国	香港	その他アジア	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ	カナダ	その他欧州	オーストラリア	その他	合計
2017(H29)年度	803	2,160	543	877	210	92	33	11	7	20	32	4	0	4,792
2018(H30)年度	1,680	1,843	501	1,263	240	134	24	8	16	10	305	9	228	6,261
2019(R1)年度	812	1,015	960	1,368	350	118	32	5	23	23	74	36	30	4,846
2020(R2)年度	21	150	61	229	387	31	4	0	16	0	77	4	21	1,001
2021(R3)年度	0	0	21	0	81	11	0	0	0	0	0	0	0	113
2022(R4)年度	20	2	76	1	92	26	1	2	0	13	28	2	0	263
2023(R5)年度	50	154	137	154	98	29	5	1	5	3	20	9	23	688
2024(R6)年度	152	1,061	223	317	309	36	10	27	3	10	16	26	35	2,225

これまで真庭地域へ来訪（宿泊）した外国人観光客データ（国別）を基に、圧倒的に来訪者の多い国（台湾・韓国）を第１ターゲット（短期）としている。コロナ前には台湾・韓国への現地プロモーションをはじめ FAM ツアーなど各種プロモーションを行い、コロナ過においても現地との情報交換会議やオンライン商談会などを定期的に実施している。これまでの関係構築の中、台湾においては令和 5 年度真庭市長トップセールス、FAM ツアーを実施している。令和 6 年度は現地へツアーデスクを設置し、ＳＮＳ情報発信をはじめ現地商談会への参加、FAM ツアーを実施し旅行商品造成販売に繋がっている。韓国においても台湾同様にツアーデスクの設置をはじめＦＡＭツアーなど今後に向けた効果を見込んでいます。近隣空港に就航便があり、アクティビティ、自然（温泉、雪、高原など）を求める傾向や、レンタカーへの抵抗が少ないなど当地域との親和性が高いためである。満足度が高ければ、リピーターにも繋がりやすい。

○取組方針
来訪者の滞在時間の延長を図るために、現地ガイドが案内するサイクリングや登山などのアクティビティプログラムを提供する。温泉の活用。雪の活用。オオサンショウウオの活用。発酵ツーリズムの推進。二次交通の整備も合わせて取り組む。

○ターゲット層
自然と共生した暮らし・田舎暮らしに関心の高い首都圏在住者

○選定の理由
【真庭 SDGｓバイオマスツアー」参加者票より】

様式１

地域別 参加者人数(人)	北海道 東北	関東	甲信越 北陸	中部 東海	関西	中国	四国	九州 沖縄	全国 海外	合計
2017 (H29)年度	63	145	27	27	600	437	58	90	157	1,604
2018 (H30)年度	22	70	13	22	331	679	4	33	128	1,302
2019 (R1)年度	22	131	27	24	107	134	25	13	53	536
2020 (R2)年度	0	25	33	0	4	656	1	0	0	719
2021 (R3)年度	0	27	9	8	385	1,560	3	27	0	2,019
2022 (R4)年度	19	148	28	61	1,000	1,327	8	44	137	2,772
2023 (R5)年度	20	271	44	53	1,256	947	115	21	142	2,869
2024 (R6)年度	25	226	23	19	761	476	13	33	95	1,671

これまで当観光局で実施している「真庭 SDGｓバイオマスツアー」の参加者データ（参加都道府県・その他詳細のアンケート分析）を基に、自然と共生した暮らし、循環型のまちづくり、SDGｓに関心のある層が「真庭 SDGｓバイオマスツアー」への参加などを通じ、当地域への移住や定住に発展したケースもある。当地域に観光を目的に訪れている近県や関西圏とは異なる「新たなターゲット層」として、首都圏在住者を選定する。

〇取組方針

農林業・酪農などの体験プログラムや地域ならではの食を提供する仕組みを地域ぐるみで構築し、地域のサスティナブルな暮らしぶりを体感できるツアー・プログラム商品の造成に取り組む。

教育旅行誘致においても更なる商品化を行い取り組む。

〇ターゲット層

広島・鳥取・岡山・倉敷に訪れる日本の伝統・文化、アクティビティに関心の高い欧米豪ＦＩＴ

〇選定の理由

【外国人宿泊者数調査票より】

これまで真庭地域へ来訪（宿泊）した外国人観光客データ（国別）を基に、絶対数ではかなり低い欧米豪だが、これまで、欧米豪をターゲットにした滞在プログラム（発酵ツーリズム、散走）を開発・販売しており、その効果も見込んでいる。

長期滞在型の旅行傾向にあり、比較的富裕層も多く、旅慣れていて上質な体験を求める傾向にある。また、受入側が体制や環境を整えることにより、地域内での消費も期待できるため。

〇取組方針

ブランドコンセプトに基づく効果的なプロモーションを行い、農山村のサスティナブルな暮らしや景観、町並みの成り立ちや育まれてきた文化が感じられる上質な空間づくりを目指すとともに、質の高いアクティビティプログラムの造成に取り組む。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	たった１００万年のおくりもの ～陰と陽の交わるところ真庭～　Present of Just One Million Years

	※平成 28 年度真庭市観光戦略策定ワークショップ、平成 29 年度真庭市観光戦略会議ワークショップを開催してきた過程で、メンバーが議論を交わし決定したもの **〇蒜山の雲海を 100 万年前の蒜山湖の姿に見立てたコンセプトを表す写真** **【ブランドストーリー】** 　かつて、蒜山は湖だった。激しい火山活動によって、100 万年前に誕生した蒜山三座。前後して、蒜山湖が生まれたという。さらに時を経て、35 万年前に大山が噴火。ダイナミックな地形の変化が起こり、山陰へ流れていた川が、山陽へとその流れを変えた。蒜山湖は消滅したが、山陰と山陽の分岐点となり、多様性を受け入れた「ここだけ」の文化が生まれた。悠久の時をかけて育まれた、真庭の清らかな水は、蒜山湖に縁をもつ。湯原温泉、勝山の町並み、久世のにぎわい。流れとともに美しい景観と文化を生みだしていった。そしてその水で、人々はみずみずしい野菜をつくり、果物を育み、酒をこしらえた。ひとつひとつの味覚すべてに、神秘的ともいえる「100 万年の深み」が感じられる。まさに、100 万年のギフトである。否、まだたった 100 万年に過ぎない。蒜山に広がる夜明け前の雲海が、かつての蒜山湖を呼び起こさせる。これから先もずっと、あなたへの「おくりもの」であるように。
②コンセプトの考え方	100 万年前に地殻変動で隆起した「蒜山三座」は中国山地を水源とする川を堰き止め、やがて大きな湖が形成されたといわれている。大山蒜山山系の火山活動の影響により、やがて湖は川へと流れを変え、瀬戸内海へと水の潤いを注ぐ旭川となり、川沿いのまちにはたたらで精製された鉄や木材、ミツマタ、たばこなどの産物が集積し、高瀬舟によって人々の手へと渡った。 　たたら作業に従事した人々は 100 万年のおくりもののの一つである湯原温泉でその体を癒したのである。 　この地は、出雲街道、大山みちが通る交通の要衝としても栄え、人々や牛馬も行き交い、古き町並みの景観や醸造文化も守り育てられてきた。 　深山から里山へと水は流れ、長い年月歴史を刻ざまれてきた今日。蒜山に広がる雲海が、かつての蒜山湖を回想させる。自然とともに暮らし、「循環する」、「持続可能」な営みの価値をこの地に生きるものとして再認識し、誇りと愛着を育み、後世にも守りつなげていきたい。 　100 万年続いてきた持続可能な循環型のまちづくりの在り方を、地域独自の価値として確立していき、ブランドコンセプトに基づく一元的な情報の発信、滞在交流プログラムを通じ、現地での「至福の瞬間」を来訪者へ提供し、この地域に魅了されるファンを獲得するとともに、住民自らが豊かに暮らせる地域づくりを目指し取り組みを進めていく。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	ワーキンググループ、観光地域づくりマネージャー会議、観光戦略会議の開催
	（一社）真庭観光局の事業計画の進捗状況、観光地域づくりマネージャーテーマ事業が取り組む各種事業の進捗状況を地域関係者が共有し、事業に対する提案や質疑などを重ねながら、合意形成を進めていく場として「観光戦略会議」を設置し、年 3 回開催する。なお、決定事項は必要に応じて理事会へ報告する。

	地域関係者の合意形成が特に必要となる取り組みについては、各テーマ事業によるワーキンググループを設け、観光地域づくりマネージャーを中心としたメンバーと関係者が事業の具体化に向け、活動を進めていくこととし、観光地域づくりマネージャー会議を観光戦略会議の開催前に行う。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	平成 30 年度から実施している観光客満足度調査をはじめ、各種データの収集を引き続き実施し、そこから地域課題や観光客から評価の低い点・要因を分析し、その改善策を観光戦略会議やワーキンググループ（部会）において検討する。 観光客に提供する各種サービス（情報発信・現地での情報提供・滞在プログラム・宿泊施設での受入・二次交通等）の品質の維持・改善を目指し、立案した事業を実施し、観光客へのアンケート調査も再度行いながら、評価・分析を継続していく（ＰＤＣＡサイクルの構築)。 満足度調査の成果をはじめ、(一社）真庭観光局の取組については、地域関係者へフィードバックし、サービスの品質向上にもつなげていく。 将来的には、宿泊施設や滞在交流プログラムについても、観光客からの満足度の高いサービスを品質認証し、上質なサービスを求める客層へ向け、積極的に情報を提供する仕組みづくりを行う。 令和３年７月にオープンした観光交流・文化発信施設「GREENable HIRUZEN（グリーナブルヒルゼン)」を拠点に「GREENable ブランド」の認定・基準を設け、滞在交流プログラム造成においても「GREENable ブランド」を意識した商品づくりを行っている。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	新たなターゲット（海外、首都圏、体験を好む旅行者）に向けたブランドイメージの発信（入口の作りこみ、一元化）をポータルサイト、ガイドブックなどのツールにより行っていく。なお、ポータルサイトについては、多言語対応機能を付帯し、滞在プログラムや二次交通などの予約が可能なシステムを検討するとともに、アクセス状況の分析機能も整備する。 ＳＮＳと連動した情報発信も行い、観光地域づくりマネージャーテーマ事業を主として、真庭観光サポーターズ（ワーキンググループ）メンバーなども参画し、地域全体でブランドイメージを発信していく。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	7,288	7,560	7,838	3,770	4,130	4,490
		(179)	(196)	(214)	(290)	(100)	(115)
	実績	3,521	3,818	3,921			
		(5)	(21)	(68)			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	265	270	275	130	140	150
		(6.5)	(7)	(7.5)	(10)	(15)	(20)
		134	123	128			

様式１

	実績	(0.2)	(0.7)	(2)			
●来訪者満足度（%）	目標	21	22	40	40	41	42
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	39	38	36			
		(－)	(－)	(－)			
●リピーター率（%）	目標	73	74	75	75	77	78
		(－)	(－)	(－)	(－)	(－)	(－)
	実績	71	73	67			
		(－)	(－)	(－)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

平成 28 年度に真庭市観光戦略策定の過程で実施したワークショップにおいては、「日帰り客から宿泊客の増加」、「滞在時間の延長を促すための滞在プログラムの提供」といった項目が今後、観光振興における取り組むべき課題としてあげられた。これらを解決することにより、観光客の満足度向上、旅行消費額増へ繋げていけるものと考える。

平成 29 年度に実施した「真庭市観光客満足度調査（夏季)」により浮き彫りとなった課題（宿泊拠点エリアでの再来訪意向、食やお土産、地域内における情報提供や移動手段に関する満足度がいずれも低い点）も踏まえ、真庭版ＤＭＯ設立準備会において、ＤＭＯの事業計画と合わせてＫＰＩの設定について議論した。また、観光関係団体のスタッフにおいても議論の場を持ち、コンセプトやターゲットも意識しながら、事業内容やＫＰＩの数値設定について議論し設定した。令和 4 年度には観光戦略アクションプランの改訂を行った。

コロナ期間を経て宿泊施設調査を実施し、施設数は 2 増あるものの、収容力が前回調査より 754 人減、部屋数は 200 減と大きな減少がみられる。現状のインバウンド入込客数調査を踏まえ令和 8 年度以降の目標数値の旅行消費額（総額・一人当たり単価）インバウンドについて見直し実施をした。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

令和 7 年度より目標修正をしています。(令和 5 年度事業報告)

毎年消費額（一人あたり）5%増を目標として設定する。

訪日外国人旅行者については、エリア内での調査サンプルが少なく、数値の変動が大きくなることが予想されるため、1 人当たりの消費額を国内旅行者と同額に設定。

令和 8 年度以降の目標値については現況に合わせた目標の検討及び再設定。

●延べ宿泊者数

令和 7 年度より目標修正をしています。(令和 5 年度事業報告)

真庭市が把握しているデータにより設定。(温泉宿泊施設のみ)

外国人宿泊者数については、平成 28 年度より行政、地域内宿泊施設と連携のもと調査を実施。

滞在交流プログラムの造成・販売により、毎年 10,000 人の宿泊者数増を目指す。

●来訪者満足度

平成 28 年度から実施している「真庭地域来訪者満足度調査」で収集したデータによる。

来訪者満足度については、7 段階評価形式によるトップボックス数値を基準とした。

毎年 1%増を目標とする。

平成 30 年度より全国の観光圏等で実施しているアンケートと同様の調査形式でデータを収集し、他地域との比較なども踏まえ分析を行う。

様式１

●リピーター率
令和５年度に実施した「真庭地域来訪者満足度調査」で把握した数値（73%）の回復に向け、毎年その率を1%向上させていく。
平成30年度より全国の観光圏等で実施しているアンケートと同様の調査形式でデータを収集し、他地域との比較なども踏まえ分析を行う。

（２）その他の目標

指標項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
●滞在交流プログラム数（件）	目標	40	45	50	40	43	45
		(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)
	実績	36	30	15			
		(ー)	(ー)	(ー)			
●滞在交流プログラム参加者数（人）	目標	2,000	2,250	3,000	5,000	5,500	6,000
		(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)
	実績	7,119	6,982	5,686			
		(ー)	(ー)	(ー)			
●滞在交流プログラム満足度（%）	目標	27	28	60	61	62	63
		(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)
	実績	57	50	57			
		(ー)	(ー)	(ー)			
●ＷＥＢアクセス数（年間）（回）	目標	1,750,000	1,800,000	1,850,000	1,200,000	1,250,000	1,300,000
		(5,000)	(6,000)	(7,000)	(5,500)	(6,500)	(7,000)
	実績	1,091,647	1,112,149	1,168,364			
		(2,562)	(3,472)	(3,566)			
●特産品開発のコーディネート数（件）	目標	5	5	5	3	0	0
		(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)
	実績	11	3	0			
		(ー)	(ー)	(ー)			
●観光客入込客数（年間）（人）	目標	3,100,000	3,200,000	3,300,000	3,350,00	3,400,000	3,450,000
		(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)	(ー)
	実績	2,963,838	3,131,005	3,179,532			
		(ー)	(ー)	(ー)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方【検討の経緯】

平成 28 年度に真庭市観光戦略策定の過程で実施したワークショップにおいては、「日帰り客から宿泊客の増加」、「滞在時間の延長を促すための滞在プログラムの提供」といった項目が今後、観光振興における取り組むべき課題としてあげられた。これらを解決することにより、観光客の満足度向上、旅行消費額増へつなげていけるものと考える。

したがって、滞在交流プログラムの造成・実施、一元的な情報発信を（一社）真庭観光局が取り組む事業の重点施策とし、データ収集をもとにその成果を把握したい。

また、平成 29 年度に実施した「真庭市観光客満足度調査（夏季）」により浮き彫りとなった課題（宿泊拠点エリアでの再来訪意向、食やお土産、地域内における情報提供や移動手段に関する満足度がいずれも低い点）も踏まえ、真庭版ＤＭＯ設立準備会において、ＤＭＯの事業計画と合わせてＫＰＩの設定について議論し、弱み（観光客から満足が得られなかった点）を強みへと変えていく取組を事業として実施していく。

【設定にあたっての考え方】

●滞在交流プログラム造成数　●滞在交流プログラム参加者数　●滞在交流プログラム満足度

当地域での滞在時間の延長と旅行消費額の増加を図るために、観光地域づくりマネージャーが実施する 5 テーマ事業から提案する滞在交流プログラムをはじめ、蒜山自然再生協議会、国立公園満喫プロジェクト阪急阪神百貨店との伴走事業と連動した滞在交流プログラムの商品化を図る。また、各種事業におけるモニタ - ツアーなども含め全て商品化にしていく。なお、滞在交流プログラム参加者には、アンケートによる満足度調査も実施し、調査結果をもとにプログラムのブラッシュアップを図り、リピーター獲得へとつなげていく。プログラム造成のノウハウも蓄積し、これまで造成してきた滞在交流プログラムの販売に注力をしていく。

滞在交流プログラム造成数は毎年 2～3 増の目標とする。滞在交流プログラム参加者数は現状を加味し毎年 500 人増の目標とする。滞在交流プログラム満足度は毎年 1 増の目標とする。

●ＷＥＢアクセス数

平成 28 年度の（一社）真庭観光連盟ホームページ「まにわへいこう」の年間アクセス件数を基準とした。令和元年度から（一社）真庭観光局のポータルサイトを新たに立ち上げ、多言語化機能、ＳＮＳとの連動、滞在交流プログラムの予約受付機能を導入し内容を充実させた。ＳＮＳと連動させアクセス数を伸ばしていく。

毎年 50,000 回増の目標とする。

●特産品開発のコーディネート数

商工会をはじめとする関係団体が中心となり取組みを行っていくことが望ましいため令和 8 年度以降はその他目標より削除する。

●観光客入込客数

年間・月・地区単位での入込客数の動向を掴み、閑散期に向けての事業立案等へデータを活用する。外国人観光客の入込客数についても、データ収集の方法を今後検討必要。真庭市ならびに新庄村、地域内観光事業者等と連携しデータ収集に取り組む。

毎年 50,000 人増の目標とする。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（R4）年度	211,290,992 円	【会費】	1,145,000 円
		【受取寄付金】	1,402,502 円
		【収益事業】	57,982,067 円
		【真庭市負担金】	57,175,000 円

様式１

		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【国補助事業】	14,217,826 円
		【岡山県観光連盟助成事業】	2,547,000 円
		【美作観光連盟補助事業】	3,088,783 円
		【受託事業】	43,037,125 円
		【雑収入】	1,745,658 円
		【繰越金】	25,250,031 円
2023（R5） 年度	185,422,849 円	【会費】	1,190,000 円
		【受取寄付金】	1,403,735 円
		【収益事業】	31,934,890 円
		【真庭市負担金】	54,575,000 円
		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【真庭市指定管理料】	11,245,167 円
		【国補助事業】	5,730,162 円
		【岡山県観光連盟助成事業】	806,000 円
		【美作観光連盟補助事業】	2,617,936 円
		【受託事業】	48,164,138 円
		【雑収入】	1,535,085 円
		【繰越金】	22,520,736 円
2024（R6） 年度	161,095,710 円	【会費】	1,205,000 円
		【受取寄付金】	1,381,815 円
		【収益事業】	23,923,600 円
		【真庭市負担金】	61,592,930 円
		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【真庭市指定管理料】	12,126,330 円
		【国補助事業】	5,060,756 円
		【岡山県観光連盟助成事業】	884,450 円
		【美作観光連盟補助事業】	1,233,000 円
		【受託事業】	31,593,830 円
		【雑収入】	892,882 円
		【繰越金】	17,501,117 円
2025（R7） 年度	176,550,917 円	【会費】	1,400,000 円
		【受取寄付金】	1,700,000 円
		【収益事業】	24,466,500 円
		【真庭市負担金】	61,775,000 円
		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【真庭市指定管理料】	15,710,000 円
		【国補助事業】	5,000,000 円

様式１

		【岡山県観光連盟助成事業】	1,173,000 円
		【美作観光連盟補助事業】	2,000,000 円
		【受託事業】	40,000,000 円
		【雑収入】	2,000,500 円
		【繰越金】	17,625,917 円
2026（R8）年度	165,575,000 円	【会費】	1,400,000 円
		【受取寄付金】	1,700,000 円
		【収益事業】	28,000,000 円
		【真庭市負担金】	60,575,000 円
		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【国補助事業】	5,000,000 円
		【岡山県観光連盟助成事業】	1,200,000 円
		【美作観光連盟補助事業】	2,000,000 円
		【受託事業】	42,000,000 円
		【雑収入】	2,000,000 円
		【繰越金】	18,000,000 円
2027（R9）年度	172,575,000 円	【会費】	1,400,000 円
		【受取寄付金】	1,700,000 円
		【収益事業】	30,000,000 円
		【真庭市負担金】	60,575,000 円
		【新庄村負担金】	3,700,000 円
		【国補助事業】	5,000,000 円
		【岡山県観光連盟助成事業】	1,200,000 円
		【美作観光連盟補助事業】	2,000,000 円
		【受託事業】	45,000,000 円
		【雑収入】	2,000,000 円
		【繰越金】	20,000,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（R4）年度	177,206,007 円	【一般管理費】	48,709,884 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	42,934,906 円
		【事業費】	32,430,500 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	3,197,200 円
		インバウンド対策事業	235,000 円
		プロ―モーション関連事業	13,545,004 円
		マーケティング調査事業	627,469 円

		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	343,725 円
		会議費等	827,102 円
		【委託事業費】	32,647,843 円
		【補助事業】	20,482,874 円
		［内訳］	
		ワーケーション事業（環境省）	956,912 円
		ツーリズム事業他（観光庁）	16,437,179 円
		提案型事業（美作国観光連盟）	3,088,783 円
2023（Ｒ5）年度	165,560,408 円	【一般管理費】	50,189,811 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	18,455,420 円
		【事業費】	34,434,983 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	3,762,493 円
		インバウンド対策事業	879,432 円
		プロ―モーション関連事業	14,010,372 円
		マーケティング調査事業	713,604 円
		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	556,700 円
		会議費等	857,382 円
		【指定管理料】	11,731,486 円
		【委託事業費】	40,619,872 円
		【補助事業】	10,128,836 円
		［内訳］	
		ツーリズム事業他（観光庁）	7,572,940 円
		提案型事業（美作国観光連盟）	2,555,896 円
2024（Ｒ6）年度	148,543,212 円	【一般管理費】	49,623,786 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	15,151,835 円
		【事業費】	38,272,554 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	2,550,550 円
		インバウンド対策事業	2,171,078 円
		プロ―モーション関連事業	17,586,306 円
		マーケティング調査事業	988,280 円
		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	331,992 円
		会議費等	989,348 円
		【指定管理料】	12,006,911 円

様式１

		【委託事業費】	24,246,598 円
		【補助事業】	9,241,528 円
		［内訳］	
		ツーリズム事業（観光庁）	6,772,153 円
		提案型事業（美作国観光連盟）	1,598,199 円
		観光キャンペーン事業（岡山県）	871,176 円
2025（R7）年度	158,729,200 円	【一般管理費】	51,950,000 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	17,713,200 円
		【事業費】	34,430,000 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	2,013,000 円
		インバウンド対策事業	3,500,000 円
		プロ―モーション関連事業	11,682,000 円
		マーケティング調査事業	2,200,000 円
		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	300,000 円
		会議費等	1,080,000 円
		【真庭市指定管理料】	15,510,000 円
		【委託事業費】	28,900,000 円
		【補助事業】	10,226,000 円
2026（R8）年度	143,555,000 円	【一般管理費】	51,500,000 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	18,200,000 円
		【事業費】	33,155,000 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	2,000,000 円
		インバウンド対策事業	4,000,000 円
		プロ―モーション関連事業	11,000,000 円
		マーケティング調査事業	1,000,000 円
		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	500,000 円
		会議費等	1,000,000 円
		【委託事業費】	31,500,000 円
		【補助事業】	9,200,000 円
2027（R9）年度	150,605,000 円	【一般管理費】	52,000,000 円
		【事業原価（収益事業仕入）】	19,500,000 円
		【事業費】	36,155,000 円
		［内訳］	
		商品造成・販売強化事業	2,000,000 円

		インバウンド対策事業	4,000,000 円
		プロ―モーション関連事業	14,000,000 円
		マーケティング調査事業	1,000,000 円
		地区観光協会助成	13,655,000 円
		人材育成等事業	500,000 円
		会議費等	1,000,000 円
		【委託事業費】	33,750,000 円
		【補助事業】	9,200,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

①主力商品である「真庭 SDGs バイオマスツアー」をはじめ、ブランドコンセプトに基づき造成する「滞在交流プログラム」をＤＭＯの収益事業の核として、ツアー売上高・企画手数料・販売手数料など売上収入を事業の拡大に合わせて伸ばすことを軸に、真庭市、新庄村をはじめ、ＤＭＯを構成する団体、事業者からの負担金と合わせ運営財源の基盤とする。
②真庭市の指定管理施設運営（令和 4 年度より 3 カ年）を行い、安定した収入源の確保へ繋げる。
③事業成果を上げながら、行政や地域内産業関係団体、地域事業者からの事業を受託し収益増加に繋げる。
④ＤＭＯとして一定の成果を地域事業者にも示しながら、会員の獲得に力を入れる。
⑤二次交通の不便さ、食やお土産物の不足などの弱みを強みへと変える取組を重点的に行い、収入源へと変えていく。
⑥国の地方創生にかかる交付金、関係省庁（観光庁、環境省など）の各種補助事業メニューの積極的な活用により、ＤＭＯの運営基盤を整えていく。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

岡山県、真庭市及び新庄村は、1 市 1 村にまたがる当該エリア独自のブランドの確立により、地域の持続的な発展を目指す官民共同の組織（一社）真庭観光局を設立し、情報発信の一元化、マーケティング機能の強化、滞在交流プログラムの開発と販売、食や特産品の開発・販路開拓などの取組とともに、地域の多様な関係者の合意形成（マネジメント機能）を担う「観光地域づくり」の舵取り役・地域連携ＤＭＯとして登録したいので、（一社）真庭観光局とともに申請する。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

（一社）鳥取中部観光推進機構とは真庭市蒜山地域がエリアとして重なっているが、県境に接する真庭地域としては山陰との連携は不可欠であり、(一社)真庭観光局のＤＭＯ法人申請に当たっての助言や重複エリアにおける事業実施の方向性などを協議をした。観光地域づくり法人として先駆的に事業を展開し、様々なノウハウを蓄積している同機構とは、二次交通など共通する地域課題の解決、海外へのプロモーション活動、観光地域づくりにおける人材の育成など、様々な事業において連携の検討をしている。また、令和 4 年度より観光客動態（人流の動き）に関する勉強会を年に数回実施し、各種取組みの意見交換会を実施している。

【区域が重複する背景】

（一社）鳥取中部観光推進機構の設立時、真庭市及び蒜山、湯原地域の観光協会に対して参加の呼びかけがあり、真庭市、湯原観光協会は参加を見送ったが、従来から生活圏を含め隣接する山陰との密接な関係のある蒜山観光協会は同機構の会員となり、蒜山地域が対象区域となった。

その後、（一社）真庭観光局の設立に当たり、対象区域を真庭市、新庄村の全域と定め、蒜山観光協会もこれに参画していることから重複することとなった。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

重複区域である真庭市蒜山地域は、年間 200 万人以上が訪れる岡山県内でも有数の観光地であり、蒜山地域からの来訪者の流れを作ることは両ＤＭＯにとって重要な課題である。

両ＤＭＯとも区域内に温泉地を有し、宿泊につなげる取組をそれぞれが行っており、（一社）鳥取中部観光推進機構ではコンベンション誘致や県境を跨いだ周遊企画などの取組を進め、真庭観光局では蒜山地域での滞在プログラムの強化や区域内の他のエリアとの連携事業を促進している。

また、それぞれの取組や施設、イベントなどの情報及び来訪者に関する分析結果などの情報を共有している。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

訪者の動向やそれぞれの事業計画などの情報を定期的に共有することで、事業の実施時期、内容等によっては区域を超えた取組が可能になり、より効果的なものになると考えている。また、来訪者の流れを含めた情報が区域を越えて把握できるなど、単独で収集できる情報よりも多くの情報量を効率的に得られ、事業計画をより効果的なものにすることができると考える。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	中村　政三
担当部署名（役職）	一般社団法人真庭観光局 事務局次長 兼 総務部マネージャー
郵便番号	717-0013
所在地	岡山県真庭市勝山 654
電話番号（直通）	0867-45-7111
ＦＡＸ番号	0867-44-3002
Ｅ－ｍａｉｌ	info@maniwatrip.jp（代表） masami_nakamura@maniwatrip.jp（個人）

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	岡山県
担当者氏名	髙橋　卓也
担当部署名（役職）	産業労働部　観光課　副参事
郵便番号	700-0824
所在地	岡山県岡山市北区内山下 2 丁目 4-6
電話番号（直通）	086-226-7383

様式１

ＦＡＸ番号	086-224-2130
Ｅ－ｍａｉｌ	takuya_takahashi@pref.okayama.lg.jp

都道府県･市町村名	岡山県真庭市
担当者氏名	石賀　義久
担当部署名（役職）	産業観光部　産業政策課　課長補佐
郵便番号	719-3292
所在地	岡山県真庭市久世 2927-2
電話番号（直通）	0867-42-1033
ＦＡＸ番号	0867-42-1037
Ｅ－ｍａｉｌ	yoshihisa_ishiga@city.maniwa.lg.jp

都道府県･市町村名	岡山県真庭郡新庄村
担当者氏名	岩佐　佳奈
担当部署名（役職）	産業建設課　商工観光係　主任
郵便番号	717-0201
所在地	岡山県真庭郡新庄村 1161-1
電話番号（直通）	0867-56-2628
ＦＡＸ番号	0867-56-2629
Ｅ－ｍａｉｌ	kana_iwasa@vill.shinjo.lg.jp

（登録）【地域連携DMO】一般社団法人真庭観光局

様式２

記入日：　令和7年7月25日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
岡山県、真庭市、新庄村

【設立時期】　平成30年4月1日

【設立経緯】　①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】　石賀　幹浩

【マーケティング責任者（CMO）】　杉本　昌春　※特定の経歴や資格など要件は設けていない。

【財務責任者（CFO）】　中村　政三　※特定の経歴や資格など要件は設けていない。

【職員数】　17人　●本部事務所【常勤9人（正職員6人・嘱託1人・出向者2人）・アルバイト4人】
●指定管理施設【臨時2人・嘱託2人】

【主な収入】
・負担金：65百万・収益事業：24百万・委託事業：31百万・補助事業：5百万
・助成事業：2百万・指定管理事業：12百万円・その他：4百万（令和6年度決算）

【総支出】
・事業費：38百万・仕入高：15百万・委託事業：24百万・補助事業：7百万
・助成事業：2百万・指定管理事業：12百万・一般管理費：50百万円（令和6年度決算）

【連携する主な事業者】
・真庭商工会・農業関係団体・交通事業者・金融機関
・地域内商工観光事業者・行政

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年	2027（R9）年
旅行消費額（百万円）	目標	7,288（179）	7,560（196）	7,838（214）	3,770（290）	4,130（100）	4,490（115）
	実績	3,521（5）	3,818（21）	3,921（68）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	265（6.5）	270（7）	275（7.5）	130（10）	140（15）	150（20）
	実績	134（0.2）	123（0.7）	128（2）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	21（–）	22（–）	40（–）	40（–）	41（–）	42（–）
	実績	39（–）	38（–）	36（–）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	73（–）	74（–）	75（–）	76（–）	77（–）	78（–）
	実績	71（–）	73（–）	67（–）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
・国内：自然と共生した暮らし・田舎暮らしに関心の高い首都圏在住者
・海外：台湾、韓国を中心とした東アジア圏のアクティブ層、30～50代のリピーター、広島・鳥取・岡山・倉敷に訪れる日本の伝統・文化、アクティビティに関心の高い欧米豪FIT

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・近隣空港に就航便があり、アクティビティ、自然（温泉、雪、高原など）を求める傾向もあり、レンタカーへの抵抗が少ないなど当地域との親和性が高く、満足度が高ければ、リピーターにもつながりやすいため。
・来訪者の滞在時間の延長を図るために、現地ガイドが案内するサイクリングや登山などのアクティビティプログラムを提供する。温泉の活用。おおさんしょううおの活用。二次交通の整備も合わせて取り組む。
・農林業・酪農などの体験プログラムや地域ならではの食を提供する仕組みを地域ぐるみで構築し、地域のサスティナブルな暮らしぶりを体感できるツアー・プログラム商品の造成に取り組む。

【観光地域づくりのコンセプト】
・「“住んでよし、訪れてよし”の観光づくり」を柱に、地域の豊かな暮らしを持続、発展させていくため「観光」を手段として地域のあらゆる資源を活用した地域づくりの取組をすすめています。

具体的な取組

●観光地域づくりマネージャー（16人）が中心となり5テーマ事業と3テーマ本体連携事業を展開

【観光資源の磨き上げ】
①真庭のお寺活用ネットワーク事業
・旅僧まにわ体験プログラム商品造成
・御朱印巡り、お寺時間
②MANIWAブライダルツーリズム事業
・ブライダルフェア、婚活イベント
動画制作、SNS情報発信
③インバウンド事業
・台湾・韓国FAMツアー、ツアー造成

【受入環境整備】
④交通環境整備事業
・タクシー観光コース開発
・JR,高速バス利用普及
⑤真庭の森案内人ネットワーク事業
・プログラム造成、ガイド研修会

【情報発信・プロモーション】
⑥真庭イベントプロジェクト事業
・蒜山、湯原エリア連携イベント実施
⑦真庭めぐりコミュニケーション研修事業
・飲み歩きイベント、高校生卒業ライブ実施
⑧情報発信・エリア連携事業
・ケーブルテレビ、広報誌での市民への周知